



丹波市消防団団長 岩澤 宏（56）

数十秒にかけた思いは
決して無駄にはならない

火災現場では、少ない人数でより速く、より正確に放水する技術が求められます。消防操法は、火災現場で冷静かつ迅速に対応するための基本的動作など、総合的な現場対応力を磨くとても重要な訓練です。

災害現場に飛び込むということは、自分の命を危険にさらすことになります。また、同時に、仲間の命を預かる責任も課せられます。長期にわたる厳しい練習を乗り越えた後に形成されるチームワーク、信頼関係こそ、この消防操法の最も大きな意義であると考えています。そして、磨き上げた消防技術とチームワークが地域住民のみなさんの安全・安心につながるものと確信しています。

【大会結果】

◆ポンプ車の部 団体賞

優勝 青垣支団第4分団第2部

準優勝 市島支団第5分団第1部

◆小型ポンプの部 団体賞

優勝 市島支団第1分団第1部

準優勝 青垣支団第4分団第2部

◆ポンプ車の部 個人賞

指揮者 池上大樹（氷上支団第2分団第1部）

1番員 酒井陽祐（氷上支団第2分団第1部）

2番員 石田晋也（市島支団第5分団第1部）

3番員 足立 優（青垣支団第4分団第2部）

4番員 婦木辰也（春日支団第1分団第2部）

◆小型ポンプの部 個人賞

指揮者 竹村健次（市島支団第1分団第1部）

1番員 山名猛司（市島支団第1分団第1部）

2番員 稲継雄三（氷上支団第3分団第2部）

3番員 長久佳宏（氷上支団第3分団第2部）



⑧息の合った放水を披露⑨火点に向けて真っ直ぐにホースを延ばすようす⑩⑪気迫のこもった表情で筒先を抱える隊員



①操法開始を前に整列する隊員
②放水に向けて一斉に動き出す隊員
③④放水ははじめの合図で送水がはじまります⑤⑥勢いよくホースを持ち出すようす⑦仲間の操法を見守る隊員たち



ポンプ車の部優勝 青垣支団第4分団第2部のみなさん



小型ポンプの部優勝 市島支団第1分団第1部のみなさん

大会に向けてさらに技術を高め、優勝を狙いたい」と、次の目標を見据えていました。
小型ポンプの部では、市島支団第1分団第1部が激戦を制し、大会2連覇を果たしました。「連続優勝というプレッシャーがかかるなか、団員が一致団結したことがこの結

果につながった」と指揮者を務めた竹村健次さん（39）は喜びを語りました。
8月3日（日）に兵庫県立広域防災センター（三木市）で開催される県大会には、丹波市代表として、ポンプ車の部で優勝した青垣支団第4分団第2部が出場します。

消防団の消防技術の向上と士気の高揚を図ることを目的に、平成26年度丹波市消防団消防操法大会が、7月6日（日）、グリーンベル青垣で行われ、各地域の支団大会を勝ち抜いたポンプ車の部、小型ポンプの部合わせて12隊が出場しました。消防操法は、実際の火災現場を想定して、ポンプ車（消防車）または小型ポンプからホースをつないで放水し、火点を倒すまでの数十秒のタイムを競います。また、指揮者以下それぞれの番員に、ホース延長や放水、ポンプ操作などの役割が細かく決められ、標的を倒すまでのタイム以外にも、操作の正

確性や安全性、規律などが審査の対象となります。
ハイレベルな操法を披露
大会は、ポンプ車・小型ポンプの部ともに、何カ月にもわたる練習で磨き上げた技と技がぶつかり合い、白熱したものとなりました。また、次々と好タイムが記録され、ハイレベルな戦いが繰り広げられました。
ポンプ車の部を制したのは、青垣支団第4分団第2部。スピードと正確さを兼ね備えた操法を披露し、県大会への切符を勝ち取りました。指揮者を務めた和田真吾さん（33）は、「優勝だけをめざして練習を積み重ねてきた。県

Highlight

魅せた！消防魂

丹波市消防団消防操法大会に迫る
一操入魂
洗練された消防技術を披露し、団員の誇りと威信をかけた熱戦が繰り広げられました。



出場隊員を代表して選手宣誓を行う青垣支団第4分団第2部の指揮者



山南支団第4分団第2部の操法で大会は幕を開けました